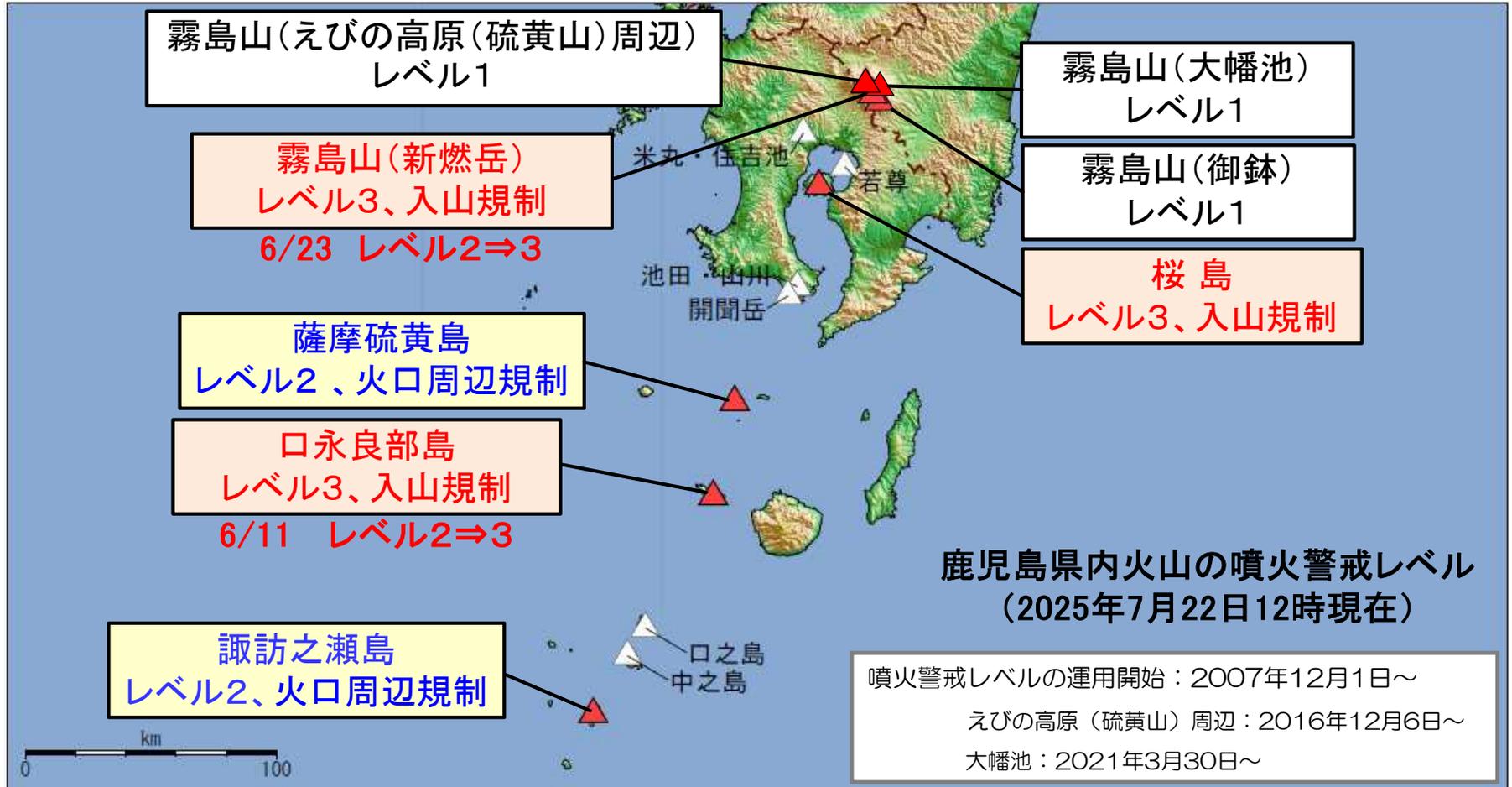


鹿児島県の火山活動概況

2025年6月～2025年7月17日

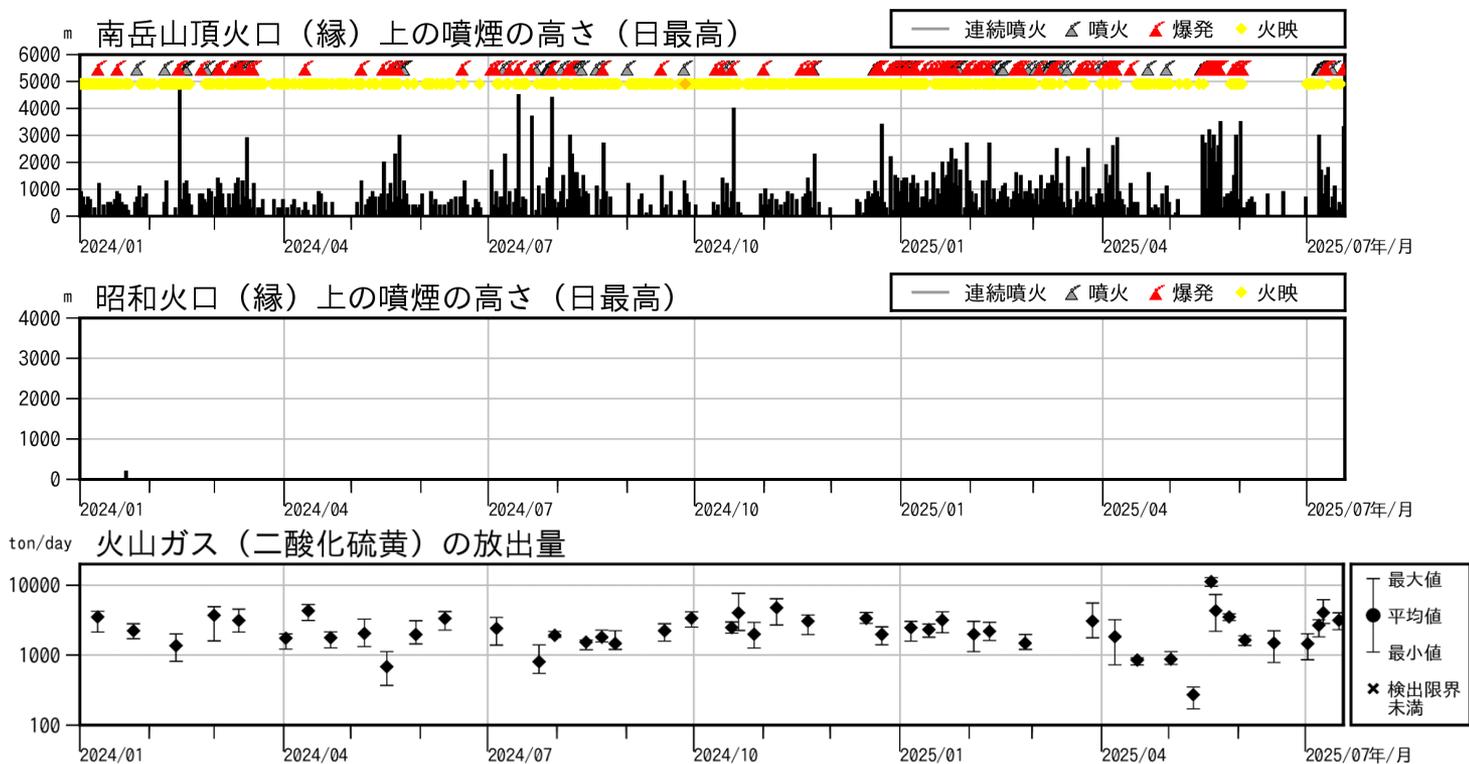


桜島 噴火警戒レベル3(入山規制)

警戒範囲:火口から概ね2km
(2022年7月27日20時00分発表)

6月以降の主な状況

活動評価	始良カルデラ（鹿児島湾奥部）の地下深部にマグマが長期にわたり蓄積した状態であり、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は概ね多い状態であることから、今後も噴火活動が継続すると考えられる
噴火活動	[南岳山頂火口] 噴火回数 7月(17日まで):11回（うち爆発:4回）6月:2回（うち爆発:2回） 6月1日16時10分の爆発：噴煙の高さは火口上3500m、大きな噴石は6合目まで飛散 [昭和火口]（ごく小規模含め）噴火は発生せず
火山ガス	二酸化硫黄の放出量は1日あたり平均1500～4000トンと概ね多い状態で経過

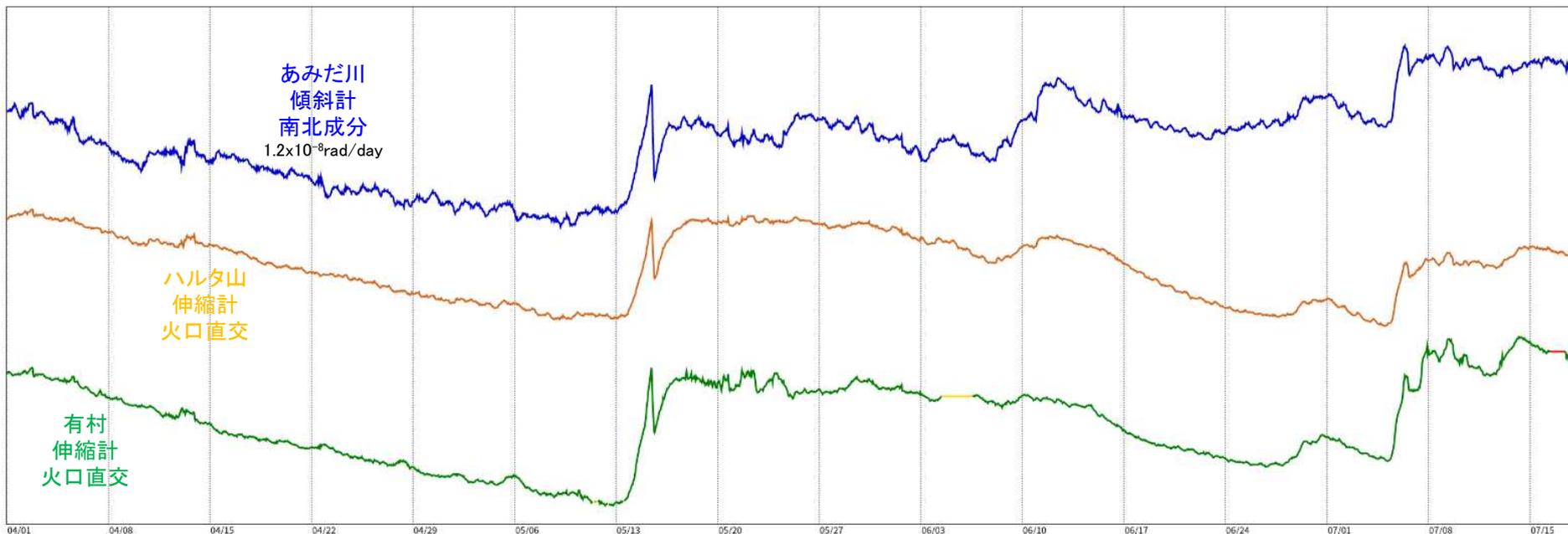


桜島 噴煙・火山ガス活動推移(2024年1月～2025年7月17日)

6月以降の主な状況

傾斜・伸縮 6月中旬頃から山体の収縮(沈降)に伴う変化がみられた。
7月5日から山体が膨張(隆起)した状態で経過している。

150nstrain
↑ 火口直交方向伸張
150nradian
火口方向UP

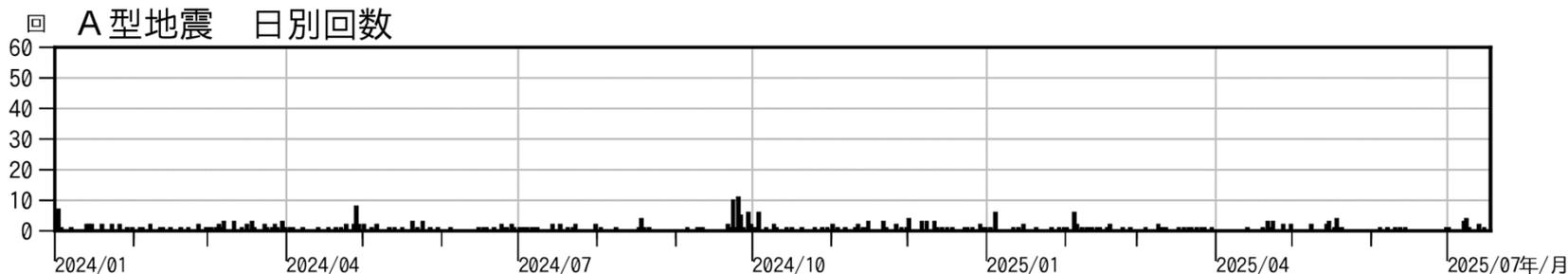
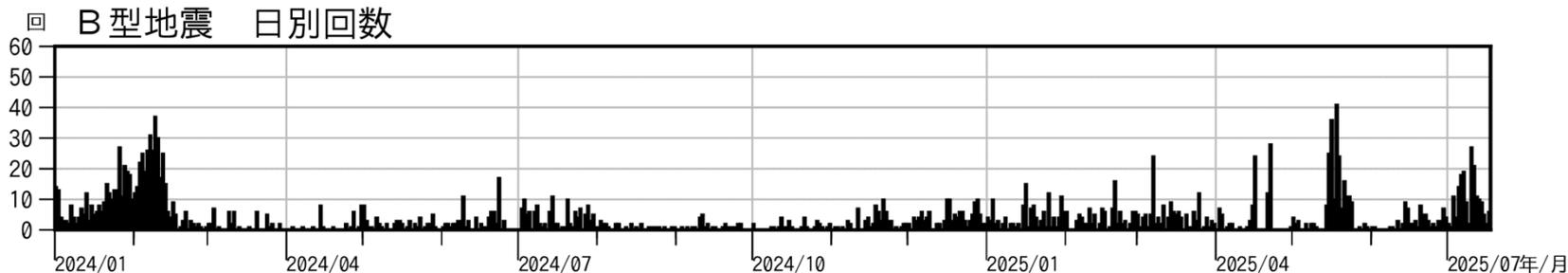


傾斜計及び伸縮計による地殻変動の状況 (2025年4月1日~7月17日)

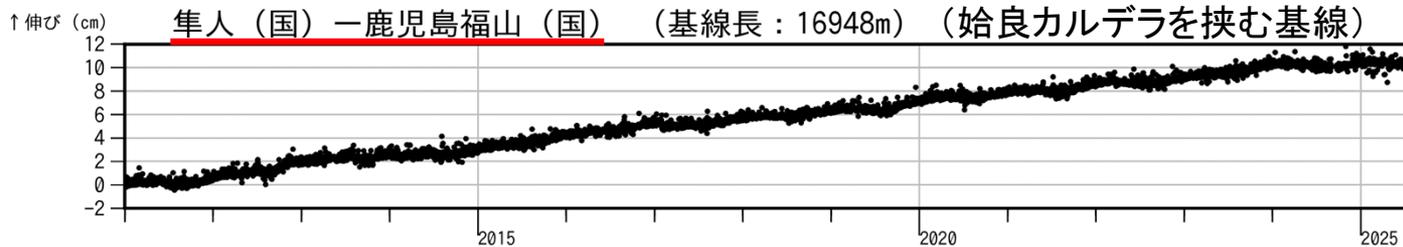
- ※各観測点のデータは潮汐補正を行っている。
- ※図の作成には、大隅河川国道事務所の有村観測坑道及び京都大学のハルタ山観測坑道の観測データを使用している。
- ※あみだ川観測点は北側が下がる傾斜変動を火口側が上がる変動とみなして表示している。
長期的に北側が上がる傾斜変動($1.2 \times 10^{-8} \text{rad/day}$)がみられていることから、これを補正したうえで表示している。
- ※有村伸縮計の黄色線は欠測を示す。

6月以降の主な状況

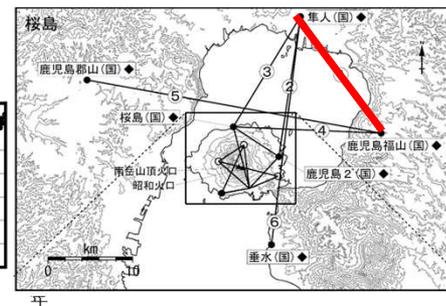
震動現象	火山性地震は少ない状態で経過
G N S S	長期にわたり始良カルデラの地下深部の膨張を示す緩やかな伸びがみられる



桜島 地震活動推移(2024年1月~2025年7月17日)



桜島 GNSS基線長変化図(2011年1月~2025年7月17日)

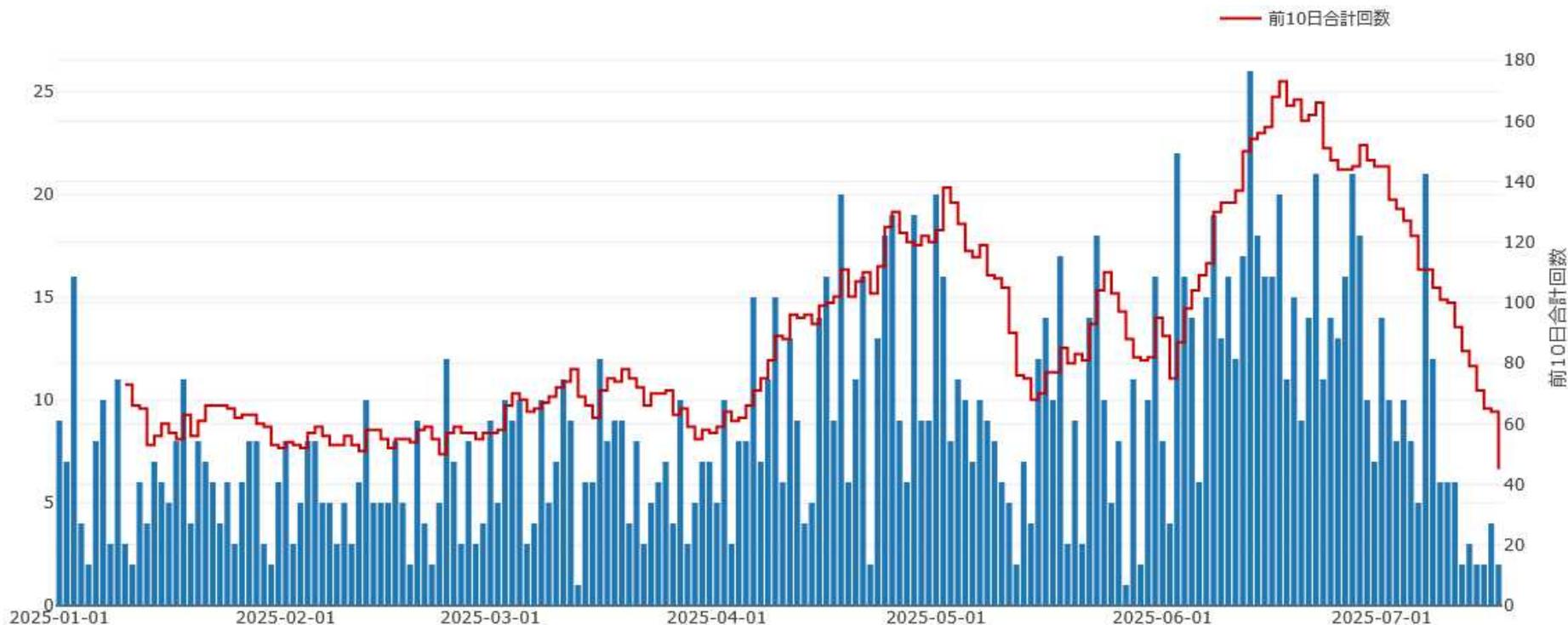


口永良部島 噴火警戒レベル3(入山規制)

警戒範囲:新岳・古岳火口から2km、西側は海岸まで
(2025年6月11日21時00分発表)

6月以降の主な状況

活動評価	火山活動が高まった状態、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒
震動現象	4月上旬から山体の浅いところで地震活動が活発化したが、7月9日頃から地震回数は減少。



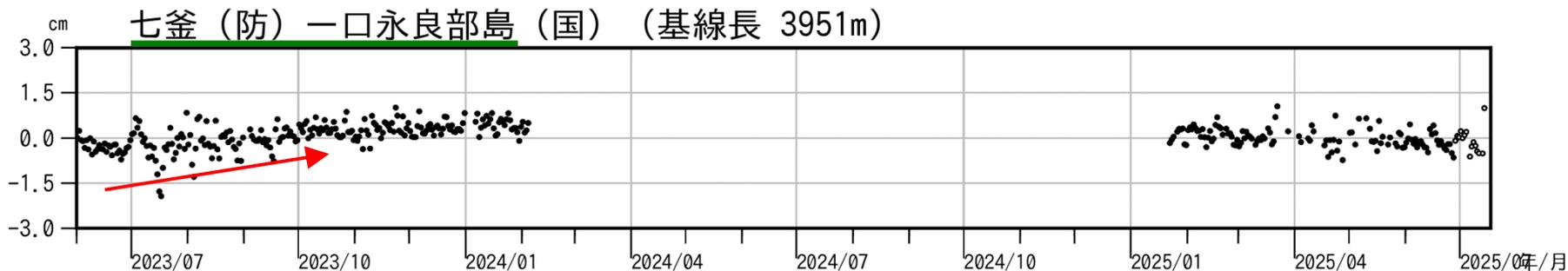
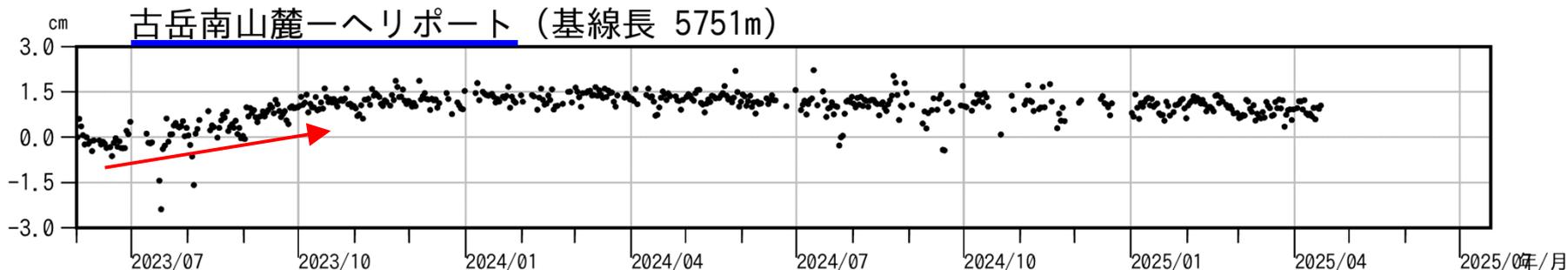
口永良部島 火山性地震日別回数(2025年1月～2025年7月17日)

口永良部島 噴火警戒レベル3(入山規制)

警戒範囲:新岳・古岳火口から2km、西側は海岸まで
(2025年6月11日21時00分発表)

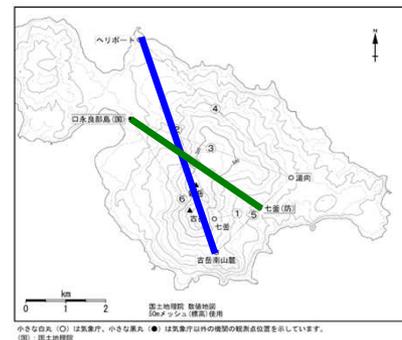
6月以降の主な状況

G N S S 2023年6月下旬頃から10月頃にかけて古岳付近の膨張を示す変動を観測(赤矢印)
現在も膨張した状態を維持



口永良部島 GNSS 連続観測による基線長変化(2023年6月~2025年7月17日)

※空白部分は欠測を示す



口永良部島 噴火警戒レベル3(入山規制)

警戒範囲:新岳・古岳火口から2km、西側は海岸まで

(2025年6月11日21時00分発表)

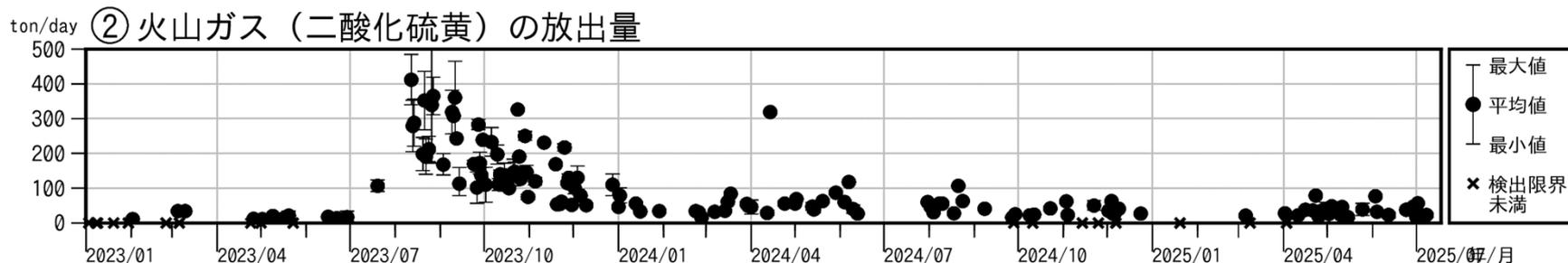
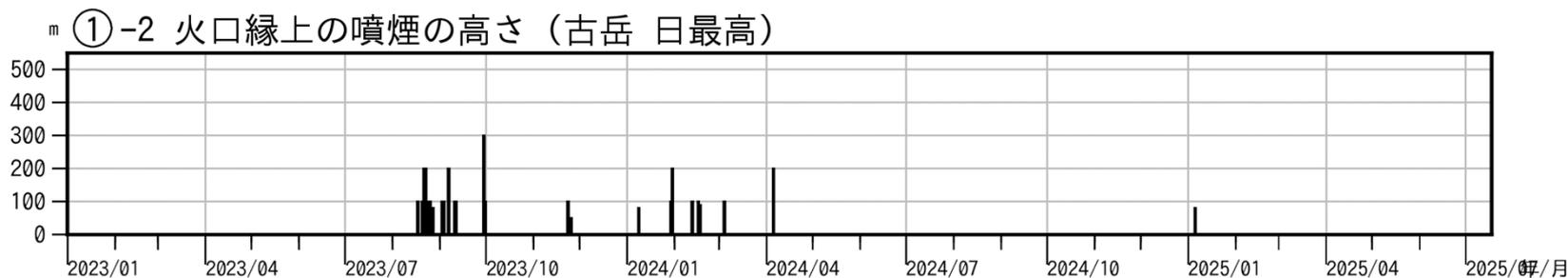
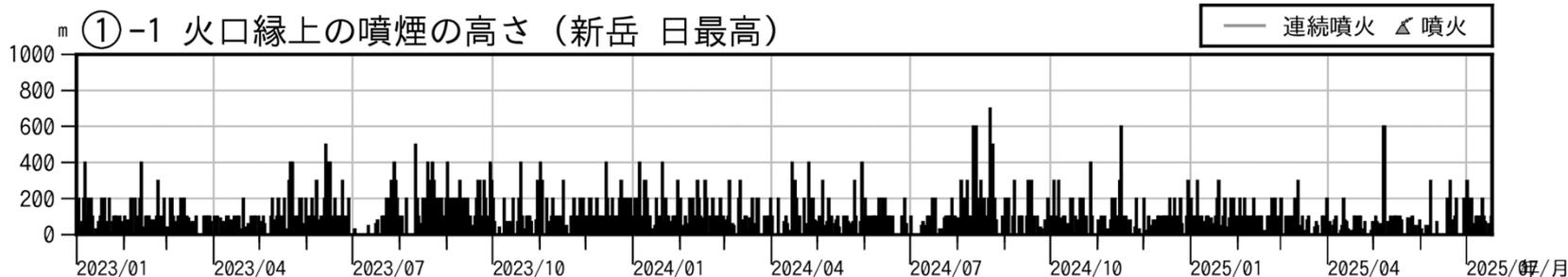
6月以降の主な状況

噴煙活動

[新岳火口] 白色の噴煙を観測 最高300m
[古岳火口] 監視カメラでは火口縁を越える噴煙は観測されていない

火山ガス

二酸化硫黄の放出量は1日あたり平均20~80トンと少ない状態で経過



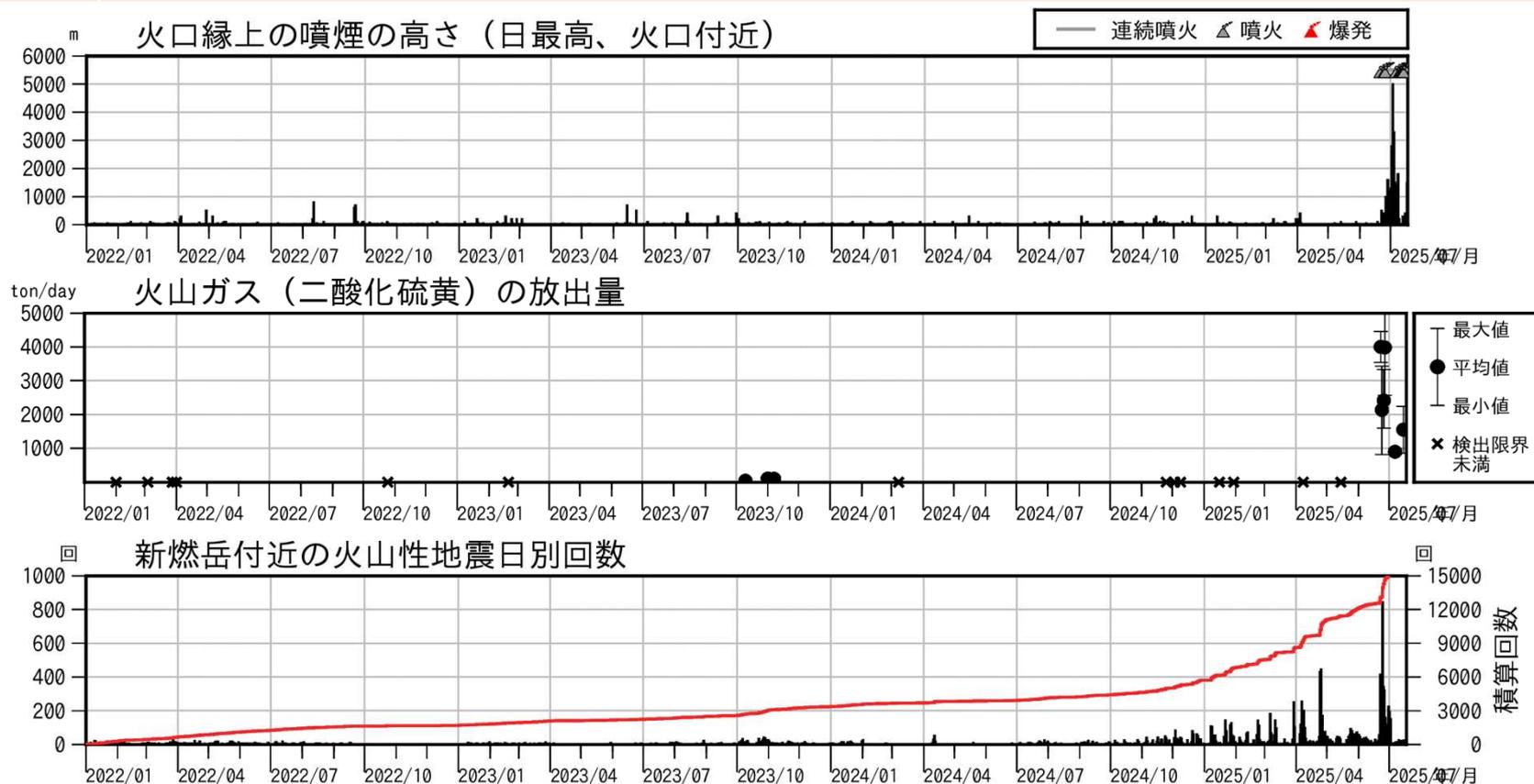
口永良部島 活動経過図(2023年1月~2025年7月17日)

新燃岳 噴火警戒レベル3(入山規制)

警戒範囲: 火口から概ね3km
(2025年6月23日18時30分発表)

6月以降の主な状況

活動評価	火山活動は活発な状態で経過、新燃岳火口から概ね3kmの範囲では大きな噴石などに警戒
噴火活動	6月22日以降噴火活動が継続、7月3日13時49分の噴火で噴煙が火口上5000mまで上がる
火山ガス	火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は1日あたり平均900～4000トンと概ね多い状態で経過
震動現象	2024年10月下旬頃から火口直下を震源とする火山性地震が増減を繰り返している 6月22日以降、火山性微動が断続的に発生



新燃岳 火山活動経過図(2022年1月～2025年7月17日)

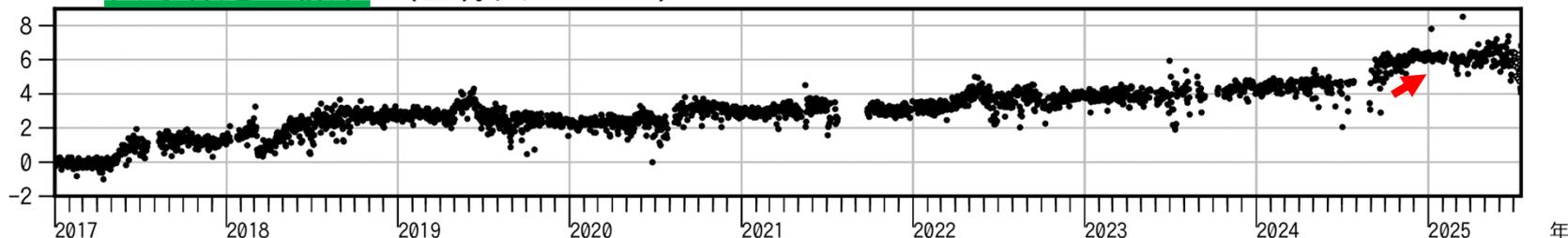
新燃岳 噴火警戒レベル3(入山規制)

警戒範囲: 火口から概ね3km
(2025年6月23日18時30分発表)

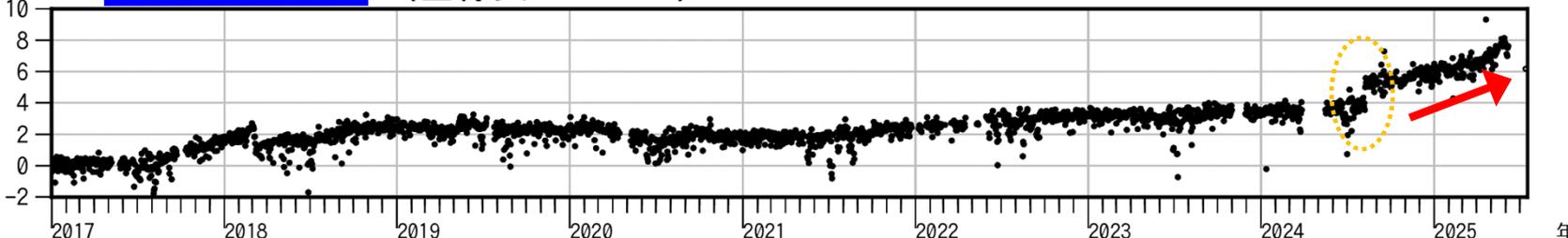
6月以降の主な状況

GNSS 2024年11月頃から、霧島山を挟む一部の基線で新燃岳付近の地下の膨張を示すと考えられるわずかな伸びが認められる。3月頃から、霧島山深部の膨張を示すと考えられるわずかな伸びが認められる。

↑伸び (cm) 夷守林道一新床 (基線長: 7637m)



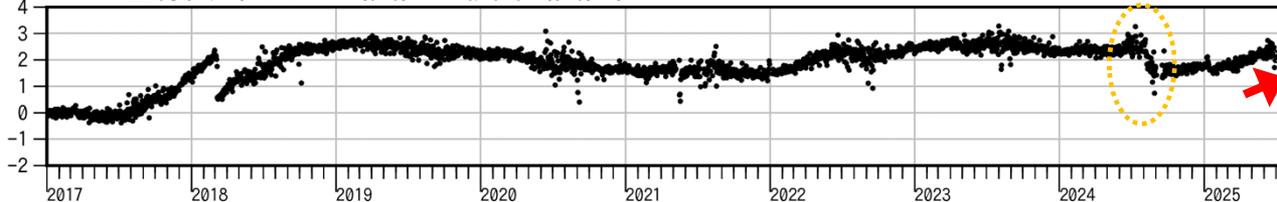
↑伸び (cm) 野々湯一皇子原 (基線長: 15433m)



新燃岳付近 GNSS 連続観測による基線長変化(2017年1月~2025年7月17日)

※橙色の破線は2024年8月8日の日向灘の地震による変動を示す

cm GNSS基線長 (えびの(国) - 牧園(国))



霧島山 GNSS 連続観測による基線長変化(2017年1月~2025年7月17日)

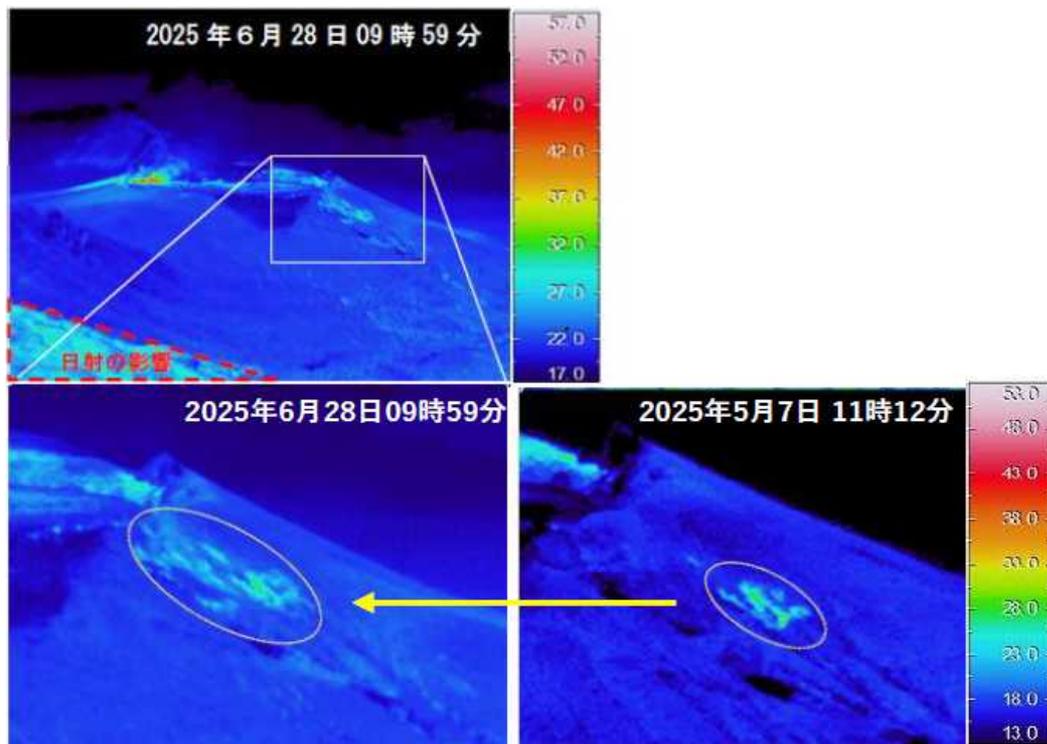
※橙色の破線は2024年8月8日の日向灘の地震による変動を示す



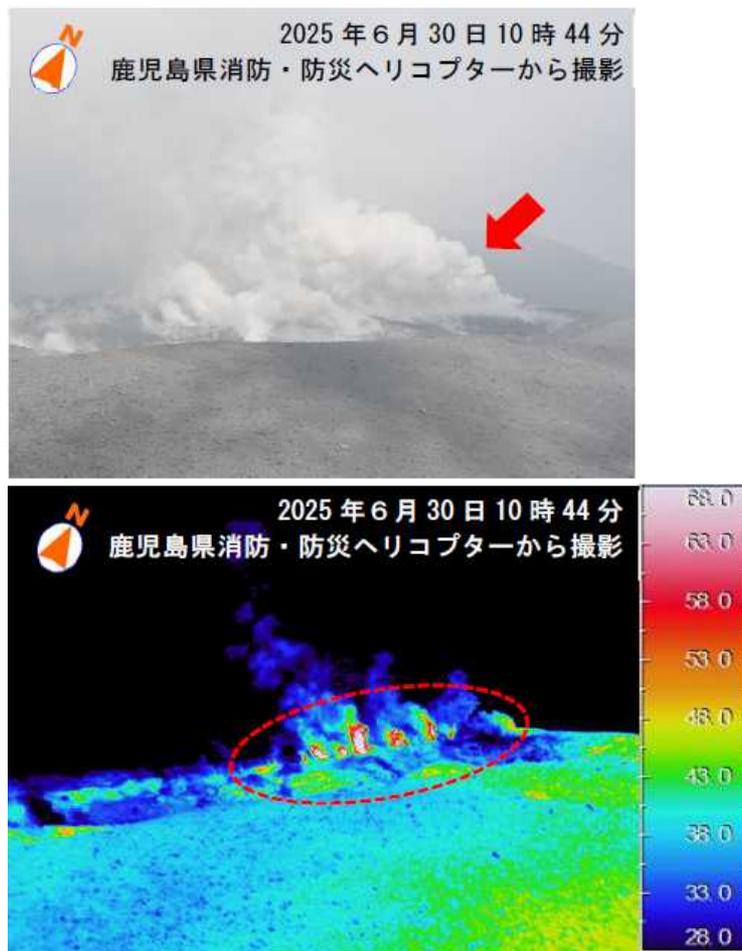
火口内および火口周辺の状況

現地調査、
上空からの
観測

6月28日に実施した現地調査では、火口西側斜面の割れ目付近で地熱域が火口方向に拡大していることを確認した(黄色線内)。6月30日に鹿児島県の協力により実施した観測では、新燃岳火口内の北東側において、列状に並んだ複数の火孔から噴煙に対応した熱域を確認した(赤破線内)。



新燃岳 火口西側斜面の状況
(6月28日 韓国岳山頂付近からの観測)



新燃岳 火口内の状況
(6月30日 鹿児島県の協力による観測)